

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第12回
議事要旨**

1. 日時 平成15年10月10日(金) 14:00~16:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 水谷副委員長, 相澤委員, 倉島委員, 柴田委員, 関根委員,
田中委員, 長谷川委員
4. 会議の概要
 - (1) 第2回最終発表について
11月13日(木)の最終発表に向けて, 中間発表の提案冊子の体裁と構成を修正し, 提案の趣旨などに誤解を生まないよう十分配慮を加えることとした。また, 「ユビキタス」については, 第2回最終発表から除外して更に継続検討することとした。
 - (2) 第3回以降の言い換え提案作業日程等について
一語一語について更にきめ細かく対応するために, 中間発表までの作業期間を4カ月, そのあと最終発表までの作業期間に4カ月を確保し, 1回分の言い換え提案に要する作業期間を8カ月とすることとした。また, 提案する語も, 言い換え作業をしながら検討していくこととした。
5. 会議での主な意見

中間発表では, 提案冊子に提案趣旨が十分盛り込まれていなかったため, 誤解が生じたように思われる。分かりにくい外来語といっても, 公共性の高い場面で使われていることを問題としていることと, 読み手の分かりやすさに対する配慮に注目していることをもっと強調すべきである。

言い換え語だけに焦点が当てられているくらいがあるので, 言い換え提案と同時に説明を施すとしたら, どのような説明があるかという二つを組みにして出し, また目安として提案していることを, もっと前面に出す必要がある。

公共機関でそれぞれの指針を持ち, 言い換えや注釈などの工夫をしてほしい。この提案は, そのための基本的な考え方や基本資料を提供するというを簡潔に訴えていく必要がある。

外国語の訳語を考えていると誤解されているようである。委員会では日本語で書かれた文脈の中に出てくるカタカナ語を相手にしており, そこでの意味を捉えて言い換え語あるいは意味説明をしていることを明記する必要がある。

聞き手や読み手の性別, 職業, 居住地等によっても言葉の使い方に配慮が必要なことを書き添える必要がある。

文脈によって適切な言い換え語が変わるので, 言い換え候補語はなるべくたくさん挙げるようにした方がよい。

言い換えることで概念がむしろ部分的に変わってしまい, 混乱する恐れがあるので, 分かりやすい説明を括弧に入れる手当ても示した方がよい。

重要な概念を表す語について, 外来語でない形でなじみやすく的確な言い方ができるのであれば, そういうものを選んでそれに意味を託すやり方も試みる価値がある。言い換え提案は単なる言葉の置き換えゲームではなく, 将来の日本語をどうするか, 分かりにくい外来語の犠牲者をどれだけ少なくするか, どのようにしてより効率的

なあり方を言葉に求めるかを目指している。更に未来の犠牲者をどれだけ減らせるか、どれくらい日本語を整った意味のあるものにしていくかを、広く見て考えてもらえるようにしたい。

なぜこのような提案をしなければならないか、誰が困っているかをもっと明確にした方がよい。一般の方から寄せられる苦情がいかに多いか、それに支えられてこの仕事をしているということを明らかにした方がよい。

用例に対して見え消しで言い換え語を提案する方法は、読み手側に立った方法であったが、使用者側にも配慮が必要である。

うまく言い換えることができないものもあり、そういうものについても提案するのであれば、それに適わしい発表の枠組みに移行していく必要がある。

「コラボレーション」はもう意味が拡散しはじめていて、両者が納得して共演するのではない使い方が増えており、意味自体が動きつつあることを伝えた方がよい。

「ノーマライゼーション」を「等生化」と言い換えるとき、新語への挑戦だということをはっきりさせるために、そのこと自体を説明に加える必要がある。言葉の概念をどう結びつけていくかという案を先に説明する方が親切である。

「経済」が「経国済民」を縮めたのと同じように「ノーマライゼーション」についても2字の漢語を作るのであれば、4字漢語の段階を用意するのが、まったく新しい言葉でよく分からないとの批判に対する回答になる。

言い換え提案は、置き換え辞典を作っているわけではなく、どれくらい日本文化、日本人の知恵を生かせるかということへの挑戦でもあるため、この姿勢を評価してもらうことも大切である。

「ユビキタス」を「時空自在」としたが、時空を飛び越えてどこにでも行くことができるタイムマシンのようなとの批判が多く、「自在」でいいのではないかとの意見が多く寄せられている。ただし、「自在」だけでは一面的であり、コンピュータで何でもできるような印象を与えてしまう。

「ユビキタス」は「万物組み込みコンピュータ」という言い換えが一番近いと思うが、それでも一個の万能コンピュータで全部対応するという錯覚を生む可能性がある。

「ユビキタス」は「配慮型社会」という理念を示すので、そう言い換えた方がよいという重要な提言もあるが、言葉として飛躍が大きいように感じられる。

「ユビキタス」を「どこにもある」の意味でとらえている人と、「自在」「活用」のように「人間が思うように使える」という意味でとらえている人と振れ幅が大きい。このように概念自体がまだ社会で十分定着していない語は、もう少し時間をかけて検討した方がよい。

以上